

# No.104 小林 泰彦 —無題—

Yasuhiko Kobayashi

北川フラムさんのコラム / 1997 (平成9) 年12月1日付 立川市市報記事より

小林泰彦の車止めの作品は、見る側面によってまるで違った印象を与える。

歩道側は少し変わった遠近法になっていて凸凹を感じるのだが、道路側からはまったいらに見える。一種の目の錯覚を利用した作品だ。

彼はたくさんのドローイングを描き、粘土でマケット（ひな型）をつくり、最後にステンレスで仕上げる。

金属で作品をつくる場合、作家が模型をつくり職人さんに発注することが多いが、彼は大学で鍛金を専攻してただけあり、発注することなく、自らの手で最後まで作品を仕上げている。

磨きこまれた作品は、辺りをぼんやりと映し出す。シャープなのに冷たい印象はなく、むしろ温もりすら感じるのは、作家自身の手で仕上げられたからかもしれない。